

施政方針

「令和発祥の都」として本市をさらに羽ばたかせる新たなビジョンを構想していく「総括と構想」の一年！

楠田大蔵市長が2月26日(水)、太宰府市議会第1回定例会において、令和2年度の施政方針演説を行いました。
「施政方針」とは、これからの市政運営に向けての基本的な考え方と主な施策を示すものです。今回の特集では、施政方針の概要を紹介し、全文は市ホームページに掲載しています。



はじめに

まず冒頭申し上げます。新型コロナウイルス対策につきましては、近隣自治体に先駆けて1月末の時点でいち早く対策本部を立ち上げ、適時適切に会議を重ね、情報収集や注意喚起などに努めて参りました。

苦渋の決断でありましたが、先週福岡県でも初めて感染者が確認されたことから、即座に中西進先生をお招きするイベントを始め諸行事を中止もしくは延期とし、職員をあげてその対応にも努めて参りました。

引き続きこうした対応を重ねながら、可能な限り本市における感染者発生を食い止めると共に、仮に判明したとしても速やかに対応し、重症化や拡大を防ぐことが出来るようコミュニケーションを重ねて参ります。

また、国際観光都市でもあります本市では観光客の減少などによる悪影響も少なからず及びつつあります。風評などによる混乱を避けると共に、国県と緊密な連携を図りながら経済対策などにも努めて参ります。

さて、私が市長に就任して2年が経過しました。おかげさまで就任1年目の平成30年度決算から、市政の安定化や子育て支援、起業支援などの成果もあり、市税が約6千7百万円、ふるさと納税も3千万円余

りの増加を記録しました。

また、国や県からの補助金活用にも努める一方、新たな借入れを極力抑えると共に、既存の借入れ約7億5千万円の前倒し返済を断行することなどで、経常収支比率は91・3%と前年度に比べ0・8ポイントの改善を早速実現しました。

就任2年目となります昨年を改めて思い返しますと、御代替わりを迎える節目の一年を「新生太宰府元年」と位置づけ、かつての混乱を乗り越え、新たな飛躍につながる意欲的な市政運営に努めると宣言致しました。

そうしたところ、新年早々より西鉄太宰府駅のリニューアル、タモリ×鶴瓶のNHK新春特番放映、筑陽学園高校野球部の甲子園出場など慶事が続き、4月には新元号「令和」との大変光栄なご縁を頂きました。

その間、市と致しましても、民間プール等を活用した小学校水泳授業、甲子園応援クラウドファンディング、市内大学との連携による不登校児童生徒への支援など意欲的な試みを矢継ぎ早に続けて参りました。1300年の時空を超えて太宰府の歴史に思いを致す「時の旅人プロジェクト」を企画し、市民参加による人文字、クリアファイナル販売、記念モノメントクラウドファンディングを実施し、慶びを分かち合いました。

催し、市民と共に記念すべきイベントを慶び合います。1300年の歴史を誇る大宰府政庁跡に現代の夢の聖火が入るのを今から楽しみに致しております。また、10月には全国史跡整備市町村協議会の総会を本市で開催します。福岡県では半世紀ぶりの開催、史跡指定100年を迎える節目の年度にもあたりますので、今後100年の史跡地の維持保存や活用を創造するような大会にして参ります。

一方で、来年度は第五次総合計画の最終年度にあたり、目標達成に向け最後まで取り組んでいくとともに、現計画の総括に着手し、それに続く今後の本市のあり方の構想を練る年ともなります。そうした意味から、令和2年度を「総括と構想」の年に位置付け、これまでの取り組みの成果や課題などを見極めたうえで、「令和発祥の都」として太宰府市をさらに羽ばたかせる新たなビジョンを構想して参ります。

さて、先程来述べて参りましたように、この度提案致します令和2年度当初予算案は、令和の慶びや効果を市民の皆様へ還元し、令和発祥の都としてさらに羽ばたかせるための予算、言わば「令和還元予算」と位置付けております。「新生太宰府元年」にふさわしい取り組みの成果や令和効果もあり、歳入については、市税では1億円を超える、ふるさと納



そうした成果も認められ、6月には市を代表して首相官邸を訪問し、安倍晋三総理、菅義偉官房長官にも直接に「令和」による本市の経済効果や課題について報告し、地方の時代の牽引役としての期待をかけて頂きました。

7月には、国との更なる緊密な連携を目論んで本市初めての中央省庁との人事交流を実現し、環境省からキャリア官僚であります五味氏を総務部理事として迎え、本市若手職員を先方職員として送り出しました。

同じ頃、総合戦略推進委員会、通称「まちづくりビジョン会議」を開始し、各界の精鋭の方々にご参加頂いております。本市の積年の課題であります歳出入一体改革を核とした総合戦略策定を進めて頂いております。

10月始めには待望の宿泊及び飲食施設「HOTEL CULTIA DAZAIFU」税では約2億円の増収を見込んでおり、当初予算と致しましては過去最高の250億円を超える規模と致しました。編成においては、市を取り巻く様々な課題に対し全庁一丸となって対応すべく、昨年度に引き続き三役・部長・課長合同会議並びに係長・一般職員も対象にした自主研究の場から経営方針・予算編成方針を語りかけ、その共有を図りました。

また、昨年に増して最少の経費で最大の効果を出せるよう各部署単位でポトムアップ事業として新規・改善事業を3つ以上提案する仕組みを設定し、スクラップアンドビルドを心掛けるなど更なる改善を図ってきたく所でありま。

なお、本年度予算では小学校プール建て替え・改修費用の節減や高校野球・サッカー全国大会の奨励費、令和記念モノメント製作、中西先生イベント運営費等のクラウドファンディングによる代替等で億単位の歳出削減効果を実現致しました。来年度も同じく小学校プールの建て替え・改修費用の節減、会計年度任用職員制度変更に伴う人件費増の抑制、各種イベントの見直し、補助金等の精査、成人式記念冊子の官民共同発行等で億単位の歳出削減効果を見込んでおります。

U」が開業致し、本市の長年の課題であります観光の回遊性向上による税収増加や経済効果上昇が着実に前進しております。11月には西日本鉄道の都府楼前駅の副駅名が「令和の里」となり、全国的な話題となりました。そうした効果もあり、大宰府政庁跡一帯には現在もおかげさまで多くの皆様にお越しいただいております。

6月に有料駐車場として供用を開始いたしました「大宰府政庁前駐車場」につきましては、既に2千500台を突破致しました。これは、当初想定を大きく上回り、収入の採算ラインも大きく超えるものとなっております。

また、7月より再有料化に踏み切りました大宰府展示館にも毎月一昨年を大きく上回る入場者数が訪れ、坂本八幡宮参拝者も含め、大宰府政庁跡一帯でも念願の観光回遊性の向上による大きな経済効果が生み出されております。

また災害対策にも全力を挙げて参りました。グッデイや日本郵便、ヤマト運輸などの民間企業と災害協定を結ぶと共に、佐賀県武雄市とも災害時相互応援協定を締結するなど、本市の災害対応力の更なる強化に努めて参りました。

力を入れて参りましたふるさと納税も、新たな太宰府らしさを発信する「THE DAZAIFU」プロジェクトに続き「THE REIWA」プロジェクトもスタートさ

残念ながら中止となりましたが、令和最初の初春令月に合わせ新元号考案者とされる念願の中西進先生をお招きして「令和と太宰府の関係をひもとく講演会」や子ども・学生未来会議、「令和発祥の都太宰府梅花の宴」を企画し、更なる機運の高まりに努めて参りました。

5月には東京オリンピック・パラリンピックに向けての聖火リレーを本市でも開

第1のプラン 市民参画の行政、 街づくりで地域創生

市民の声が届く、市民に声が伝わる市政を実現することで、太宰府の市民力を引き出し、活力ある地域を創生します。

◆「広報戦略」
市長と語る会、ホームページやフェイスブック、広報だざいふ等による情報発信、朝のあいさつ運動、年度末繁忙期における土曜開庁の拡大などを引き続き実行に移すと共に秘書広報機能の更なる充実強化を図って参ります。

◆「まちづくりビジョン会議」
総合戦略策定後も引き続き産官学等による具体的な事業提案などを受け、ダイナミックな事業展開が図れるよう意見交換を行って参ります。



◆「職員の人材確保」

人物を重視した採用とするとともに、受験者ニーズを的確につかみ申込者の更なる増大を図るため、職員有志による「職員採用プロジェクト・チーム」を新たに設置致します。職員採用説明会の開催及び就職イベントへの出展、就職情報サイトを活用した採用情報の発信とエントリー受付等を実施し、志望者の取り込みを広く積極的、効果的に進めます。さらに採用試験においては、多様な視点による選考を実施し、本市の将来を担う優秀な人材をより広く求め、効果的に人材を確保して参ります。特に就職氷河期世代の対策は既に社会問題化しており、本市の職員構成もこの世代の人数が少なく、若手職員を引く張るリーダー的役割の職員の不足が課題となっており、5人程度の人員の7月の即戦力採用に向け準備を進めます。

◆「ふるさと納税」

市内産業の活性化及び市外事業者の市内における拠点設置を図るため、「THE DAZAIFU」プロジェクトや「THE REIWA」に基づく、令和発祥の都太宰府らしい新たなふるさと納税返礼品を更に充実させて参ります。また、「モノ消費」だけでなく「コト消費」のメニューも充実させることで更なる寄附額の増加を目指すと共に、クラウドファンディングをはじめ、ふるさと納税の使途のプロジェクト化や企業

第2のプラン 学問の神様にふさわしい 教育、子育て

学問の神様にゆかりのある本市が、そのイメージにふさわしい教育、子育てを実現することで、若年層の自然増、社会増、子どもたちの飛躍を実現します。

◆「学校ICT環境整備」
ICT環境を計画的・段階的に整備しつつ、高い専門性をもったICT支援員を各学校へ派遣し教職員の研修や授業のサポートを行うことにより、児童生徒の情報活用能力の育成と更なる学力向上を図って参ります。

◆「民間プール等を活用した水泳授業」
施設のインストラクターが専門的指導を行うことで子どもたちの水泳技術も向上し、指導者が増えることによりこれまで以上に目が行き届き、安全面においても向上が図られております。合わせて、日常的なプール管理の必要がなくなることで教職員の負担軽減が図られるとともに、施設の維持管理が不要になることで、大幅な経費の節減効果も得られております。令和2年度は、本年度の実施校に加え、太宰府小学校の水泳授業についても民間プール等を活用した水泳授業を実施して参ります。

版ふるさと納税の活用による財源確保も図って参ります。

◆「計画的な公共施設整備」

市内公共施設が一斉に更新時期を迎え、多額の改修・更新費用が見込まれる中、公共施設整備基金の継続的な積立てを行いつつ、再編のありかたについて更に検討を重ねて参ります。特に「いきいき情報センター」の利活用につきましては、速やかに「サウンディング型市場調査」を実施し、公募条件の整理を行うとともに優れた事業提案を促して参ります。

億単位の歳出削減

- ・小学校プール建替・改修費節減
- ・人件費増の抑制
- ・各種イベントの見直し
- ・補助金等の精査
- ・成人式記念冊子の官民共同発行など

◆「地場産業活性化」

民間資金を活用して地域経済、地域社会の活性化を図るべく、昨年3月に策定しました「観光推進基本計画」に令和発祥の都としてのエッセンスを加えた形でのリニューアルを図ります。民間投資の誘導を行い、地域経済、地域社会の活性化を図るべく、古民家を活用した宿泊施設のさらなる展

◆「放課後子ども教室」

「小1の壁」と言われる働く保護者の放課後問題の解消や、子どもたちの安心・安全な居場所を提供することを目的として太宰府西小学校をモデル校として新たにスタートします。学年を超えた友だちや大人たちとの交流を通じ、地域の中で心豊かなたくましい子どもたちを育成するとともに、児童保育との一体型とすることで児童保育所設置事業補助金の増額対象となることから、当該事業の経費削減も図って参ります。

◆「大学交流」

情報を共有しながら共同で実施できる新たな連携事業を検討して参ります。また、不登校児童生徒の居場所づくりを行うキャンパス・スマイル事業につきましましては、好評につき大学と連携しながら更にきめ細かに進めて参ります。

◆「中学校給食」

ランチサービスの充実による喫食率の向上を図りつつ、中学校における給食のあり方について更なる検討を重ね、任期中までに一定の方向性を出せるよう引き続き努力して参ります。

◆「保育所等新規採用保育士賃助成」

私立保育所及び小規模保育施設に勤務している新規採用から3年目までの保育士で、市内の賃貸住宅に本人名義で契約し居住している者に対して、家賃の一部を助成します。

◆「保育補助者雇上強化」

保育士業務を軽減するために、私立保育所及び小規模保育施設で、短時間勤務の保育資格を持たない保育補助者を雇上げた費用に対し補助を行います。

◆「子育て世代包括支援センター開設準備」

妊娠から子育て期にわたるまでの様々なニーズに対し切れ目なくサポートし、総合的相談支援を提供するため、令和2年度中の開設に向けて、組織体制と施設改修等の準備を進めて参ります。

第3のプラン 徹底した行革と超成長 戦略で財政再建

組織横断的に徹底した行政改革による歳出削減、太宰府の底力を活かした成長戦略による自主財源の増加を同時に成し遂げ、本市の活力を増大させていきます。

3億円超歳入増

- ・市税1億2千万円超増
- ・ふるさと納税約2億円増

致します。また、中小企業者の自主的経済活動の促進及び経営の安定を図ることを目的に、指定銀行に預託を行い、市内に居住又は主たる事業所を有する中小企業者に対して事業資金を低利率で融資する「中小企業事業資金融資制度」について、更なる融資の円滑化と貸付額の増加に向け、預託額を倍増致します。

◆「計画的なまちづくりの推進」

エリアごとの人口の動態や発展の動向、当該区域の地形、自然条件並びに交通条件などを考慮した戦略的まちづくりを目指して参ります。土地・空間の利活用を検討し、当該エリアの活性化を図るためにも、基礎資料の収集や分析を行い、用途地域や高度地区等の変更の判断材料とすることで、今後、県との協議、地域への説明等に活用して参ります。

第4のプラン 積極的広域連携による 大太宰府構想

時空を超えて太宰府の地を捉え直し、令和発祥の都にふさわしい大きな視点で国際交流や地域間連携を考えます。

◆「コミュニティバス運営」

まほろば号8路線と地域サポートカー3路線の運営を行うと共に、持続可能で安全、便利なコミュニティバスの適正運行の

ための課題解決に向けて、引き続き取り組んで参ります。確実な乗り継ぎ、乗務員の休憩時間の確保、経費削減並びに、地域からの要望に応える形での利便性向上などを総合的に勘案したダイヤ改正を実施すると共に、市域を超えた連携についても引き続き可能性を追求します。

◆「大宰府政庁復興プロジェクト」

全国611の市区町村が加盟する全国国史跡整備市町村協議会の第55回大会を、10月に本市で開催することとなりました。大宰府の観点から本市の取組みや提言を全国に発信することで、本市を牽引役とする更なる史跡の魅力化や活用につなげて参ります。また、大宰府跡および水城跡が史跡として国内初の指定を受けてから節目の100年を迎えることから、記念事業を実施すると共に次なる100年の本市の史跡の維持保存、活用についても大宰府的な観点から議論して参ります。なお、大宰府跡客館地区1期整備の完成を記念し、講演会・シンポジウムを開催し、これまでの客館跡の調査研究やその歴史的な意義も広くお知らせして参ります。

第5のプラン 環境重視の逆転の発想で 渋滞解消

渋滞問題解消に向け、発想を転換し、環

境に負荷をかけず、比較的短期間で渋滞解消を実現することを目指します。

◆「渋滞解消」

総合交通計画や地域公共交通網形成計画に関する協議会において分析された情報や提案された諸施策も参考に検討を進めて参ります。その際、ロードプライシングも視野に入れた交通誘導施策、パークアンドライドやシェアサイクルの活用など本市にとって最善の方策について検討し、関係機関との協議を行って参ります。また、坂本地区を中心に大規模住宅開発事業が続いており、今後人口や交通量の増加により生活や道路環境の悪化が想定されることから、今後の対応について検討を始めます。

◆「市道の整備・管理」

通行車両による騒音や振動が軽減され、また舗装版の不陸がなくなり歩行者が通行しやすくなるよう、本年度策定する舗装個別施設計画に基づき、劣化している舗装の表層の改修事業を行って参ります。また、国土交通省の社会資本整備総合交付金事業を活用し、道路を通行する市民の安全確保を図って参ります。

第6のプラン 民間の知恵を生かした 高齢者福祉

高齢者福祉の更なる充実を図る上で、公

的支援に過度に依存しない民間主導の方式活用も検討を進めます。

◆「地域包括支援センター運営」

地域の西側を担当圏域とする地域包括支援センターの支所を設置し、4月から専門職の配置を行い運営をスタート致します。その際、地域ケア会議や協議体等の活動を通して多様な主体との連携を図ることで、利用者の利便性に配慮するとともに地域住民等に対し高齢者の視点に立ったよりきめ細やかな対応を行って参ります。同時に地域の東側が担当圏域となる既存の地域包括支援センターには、本所として統括機能を持たせ、支所との役割分担及び連携の強化を通じて効果的かつ効率的な運営体制を構築して参ります。また、イベント等に合わせ相談ブースの開設を行うなどアウトリーチ型の相談体制を引き続き進めて参ります。

◆「就職氷河期世代対策」

就労に向けてのキャリアアップ・キャリアアチェンジに向けた支援や安定した雇用の確保等の支援、また、社会参加に向けた支援につなげるため、断らない相談支援など複合課題に対応できる包括支援や居場所づくりに努めて参ります。更には、就労準備支援員により、個々人の状況に合った一般就労に向けての支援を実施し、併せて個別相談や交流会、就労体験等を通して職業的自立など、将来に向けた取組を支援する若

第7のプラン 自衛隊と連携した 市民の安心安全

者サポートステーションの活用を図って参ります。

市民の安心安全の確保こそ行政の最大の使命との思いのもと、災害対策や防災に万全を期します。

◆「市内一斉避難訓練」

市の防災力を高めることを目的に、5月に市内一斉避難訓練を市内全域において行うことに致しました。勢力が強い台風が大宰府市を通過する想定で、早期の避難を呼びかけると共に、実際に自治会ごとに指定された避難所へ避難してもらい、市民の避難行動の促進を図り、避難時の課題を洗い出し、災害対応の改善を行って参ります。

◆「高齢者運転免許証自主返納支援」

県の市町村運転免許証自主返納支援事業補助金を活用して免許証自主返納者へ交通系ICカードを交付し、高齢者の運転免許証の返納を促し、事故減少を目指して参ります。

第五次大宰府市 総合計画後期基本 計画に基づく施策

革戦略という4つの戦略であります。

これらを有機的、複合的、総合的に組み合わせ、優先順位を付けて着実に実践することで本市の歳出入一体改革を成し遂げ、来年度からの令和発祥の都大宰府にふさわしい更なる飛躍を図りたいと考えております。

しかし、いかなるビジョンを持ったとしても、やはり基本になりますのは今年の仕事始めの際に職員に呼び掛けました「市と市民の皆様の為」、「世の為人の為」との政治家、公務員としての原点であります。そうした思いを胸に、令和2年度も市と市民の皆様の為に私が持ちうる力の全てを出し尽くす覚悟であります。結びに改めまして、議員各位、市民の皆様の変わらぬご理解、ご協力をお願い申し上げ、私の施政方針と致します。

当初予算
250億円超え
(6億円、2.5%増
過去最高)

◆「小学校における移動自然博物館」

「小学校における移動自然博物館事業を新たに実施致します。専門家による授業やフィールドワーク等を通じて、子どもの頃から生物多様性に関する理解を促進し環境保全に重きを置く人材育成に努めて参ります。そうした性格から、環境フェスタの後継事業にも位置付けております。

◆「人権政策・男女共同参画推進」

人権政策は全ての施策を推進するに当たり基礎となるものであり、家庭、職場、学校、地域などあらゆる分野を通じて人権尊重の理念を普及し、理解を深めていただくよう、教育及び啓発を学校教育、社会教育とも連携を図りながら更に推進して参ります。また、固定的な性別役割分担意識の解消、ワーク・ライフ・バランスの推進、配偶者等からの暴力の根絶、女性の活躍推進などに取り組み、社会のあらゆる分野において男女が共に参画できるまちづくりを進めて参ります。

おまぐせ

「令和還元予算」と銘打ちました令和2年度の重点事業と予算案を、かねてよりの7つのプランと第五次大宰府市総合計画後期基本計画に沿って詳細にご説明して参りました。

本年度は「新生大宰府元年」としての意欲

◆「東京オリンピック聖火リレー」

本年5月に「東京オリンピック聖火リレー」を大宰府天満宮参道から大宰府政庁までのコースで本市でも開催し、市民と共に記念すべきイベントを慶び合います。合わせて、オリンピック・パラリンピックに関わりや関心を持って頂くことでスポーツへの興味や体を動かすきっかけにつなげていき、本市のスポーツ実施率の向上や健康寿命の延伸にもつなげて参ります。

◆「ごみ減量72,000人プロジェクト」

「もう一歩進もう」ごみ減量72,000人プロジェクト」として、暮らしの中で使える「水切り、食べ切り、使い切り」のごみ減量アイデア等を提供するため、広報、ホームページ、出前講座、ダンボールコンポスト講座により啓発を行います。また、生ごみ処理機購入補助金の利用促進を図って参ります。更には、市内事業所の皆様に対しては、可燃ごみの排出抑制の啓発を行い、ごみの発生の抑制を図って参ります。

◆「飼い主のいない猫不妊去勢手術費補助」

飼い主のいない猫不妊去勢手術費補助事業を新たに実施する予定にしております。飼い主のいない猫の繁殖に伴うふん尿、ごみを荒らす等の近隣被害・迷惑を低減させ、市民の動物愛護及び共生意識の高揚と、快適な生活環境の保持に努めて参ります。